71 精神科的疾患の脳血流シンチグラム

堀川 歩、勝山直文、大田 豊、諸見里秀和、中野政雄（琉球大学放射線科）

今回，我々はＣＴまたはＭＲＩで異常所見が著明でないのにもかかわらず、脳血流シンチで異常所見を認めた精神科的疾患21例（脳血管障害が原因で精神科的な症状のあるものもふくむ）について検討した。そのうち19例はI123-IMP、2例はTc99m-HM-PAOを用いた。疾患別では脳血管障害によるもの7例、Alzheimer型痴呆4例、Parkinson病2例の順であった。

全例を通じて深部灰白質の血流は比較的保たれており、小脳、脳幹に血流低下の認められるものは数例ずつであった。脳血管障害例では主に前頭および側頭葉、Parkinson病では大脳全体に血流低下を認めた。I123-IMP後期像では多くの症例で様々な再分布像を認めたが、一部には著明な再分布像をみとめるものもあった。

72 精神科領域における^{123}Ｉ－ＩＭＰ ＳＰＥＣＴ像について

山崎俊江，鈴木輝康，山本逸雄，森田陸司（滋賀医大放射線科） 高橋雅文，大西英雄，増田一孝（滋賀医大放射線部） 佐藤啓二（滋賀医大精神科）

Dementia，Depression，Schizophrenia などの精神疾患に対して^{123}Ｉ－ＩＭＰ ＳＰＥＣＴが時に施行されている．過去２年間の症例について精神病態による経時的ＳＰＥＣＴ像の変化，薬物治療による変化，Dementiaの有無と程度によるＳＰＥＣＴ像の比較を行った．また症例によってはearly image だけでなくdelayed imageも撮影し検討した．精神科領域においてはその病態により種々の変化のあるパターンが得られた．

73 脳腫瘍例での ^{99m}Tc-HM-PAO 及び ^{123}I-IMP 脳血流シンチグラフィの検討

野口一成，岩下慎二，田之上供明，田口正人，中別府良昭，中條政敬（鹿児島大学放射線科）

^{99m}Tc-HM-PAO と^{123}I-IMPの脳腫瘍への集積性を比較検討したので報告する.PAOシンチグラフィの対象は脳腫瘍16例で，方法は ^{99m}Tc-HM-PAO 740MBq静注５分後より頭部のplanar及び SPECTイメージを得，T/N 比を算出した．集積増加例はmeningioma７例，ependimoma１例であり，集積低下例はmeningioma２例，astrocytoma grade Ⅲ２例，origodendroglioma ２例，brain meta２例であった.IMPシンチグラフィの対象は脳腫瘍14例で，方法は^{123}I-IMP 111MBq 静注20分後と４時間後に頭部のplanar及び SPECTイメージを得，T/N 比を算出した．本シンチグラフィでは全例defect像を呈し,PAOシンチグラフィとの間に乖離が認められた．

Presented by Medical*Online